

温室効果ガス削減へ 遊佐町のバイオマス発電所を報道陣に公開

04月17日 18時43分



温室効果ガスの削減を進めようと、木質燃料のみを使うバイオマス発電所が、遊佐町で運転を始めていて、17日、報道陣に公開されました。

東北電力などが出資する会社が建設した「鳥海南バイオマス発電

所」は、東南アジアから輸入した木質ペレットなどの燃料のみを使うのが特徴で、去年11月、運転を開始しました。

17日は、発電所が報道陣に公開され、▽酒田港を使って輸入された木質ペレットを2、3か月分保管できる倉庫や、▽燃料を燃やす、高さおよそ60メートルのボイラーなどが説明されました。

▽発電所の年間の発電量はおよそ3億キロワットアワーで一般家庭で11万世帯分に相当し、▽固定価格買取制度に基づき、東北電力ネットワークに売電されます。

発電所は、遊佐町にある県の工業団地に建設され、用地取得のための費用や水道料金などで、町から助成を受け運営されるということです。

木質バイオマス発電は、燃やすことで二酸化炭素を排出しますが、樹木の成長過程で吸収する分が相殺されるとしてこの発電所の削減効果は、年間でおおよそ14万トンを見込んでいます。

富樫博之発電所長は「港が近くて、アクセスもしやすい環境で、カーボンニュートラルの実現において、重要な位置づけになるよう取り組んでいきたい」と話していました。